**学習指導案（50分版）　地理① 日本の領域と北方領土**

|  |  |
| --- | --- |
| 授業日時 | 令和○年　○月　○日（○曜日）　第○時 |
| 対象学年/クラス/生徒の人数 | 第○学年○組（計○名） |
| 指導者名 | ○○○○ |

|  |  |
| --- | --- |
| 本時のねらい | 日本の領域に関する考察を通して、日本の領域の範囲や変化とその特色、領域をめぐる問題などについて理解する。 |
| 指導観 | 日本の領域および領土問題に興味・関心をもって取り組めるよう、画像やデジタルデータを提示する。個別ワークまたはグループワークを通して、地理的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的な学習となるように留意する。また、生徒同士の協働的な学びを設けることにより、自己の考えや知識を深められるようにする。  導入段階では、地図を用いて日本が大小の多くの島々からなる海洋国家であることを捉えさせる。  展開では、領域に関する学習を通して日本固有の領土が侵されている現状を認識する。  まとめでは、学習を振り返り本時の学びを深める。 |
| 生徒観 | 本時の内容に対して、以下の観点について、生徒の実態を具体的に記述する。  ・学習に必要な習熟度  本時の学習を行うに当たり必要となる知識（小学校社会科の学習等を通じて身に付けた知識）に対する習熟度  ・学習経験  本時に関連してこれまで取り扱った内容（北方領土問題についての学習経験等）及び取り扱った際の興味・関心の度合い  ・その他、本時の展開に当たり必要な事項  ICTの利用経験  グループワーク等の経験、または意欲や姿勢 |
| 教材観 | 教材は、学校教育現場における北方領土についての学習などの充実を目的として、ICTを活用し、画像やデジタルデータを用いて、生徒が興味・関心、実感をもって日本の領域を捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動となるよう作成している。  本時は、中学校学習指導要領「地理的分野」の「2内容」の「A 世界と日本の地域構成」の「（1）地域構成」に基づいて設定・開発したものである。  日本列島は、北海道、本州、四国、九州をはじめとする大小様々な島々から成り立っており、日本は海洋国家である。  北海道の北東洋上にある北方領土（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）は日本固有の領土であるが、現在ロシアに不法占拠されている。また、日本海上の竹島も日本固有の領土であるが、韓国に不法占拠されている。東シナ海上の尖閣諸島は日本固有の領土であり、尖閣諸島をめぐる領土問題は存在しない。  本教材は、考察を通して、日本の領域の範囲や変化とその特色、領域をめぐる問題などについて理解を深めるとともに、領土をめぐる問題などへの関心を高めるために適した教材である。 |

本時の指導・授業の展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点  （■学習改善につなげる評価） | 使用教材  ICT活用  使用アプリ・ツール例 |
| 1. 導入   <5分> | * 本時の学習課題（日本の領域にはどのような特徴があるのだろう）をつかむ | * 授業実施用教材　地理①（以下スライド）またはGoogle Earthを右記に記載のアプリ等で画面に映しながら、一方的に主要な島を伝えるのではなく、「日本列島の主要な島って何？」と問いかけ、答えさせながら全体で確認していく。 * 日本が大小の多くの島々からなる海洋国家であることを考えさせながら、本時の課題についての発想をもたせる。 | 授業実施用教材 地理①（以下スライド）P1～P2    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| 1. 展開   <40分> | **『領域とは何か』**   * 領域とはどこまでを指すのだろう | * 領域は領土、領海、領空からなることを認識させたうえで、日本の領域の特徴を理解させる。 * 領海は低潮線（基線）から12海里（約22km）までの海域で、その海底及びその下にもその国の主権が及ぶ。ただし、外国の船も平和や安全を害さない限り通航することができる。 * 排他的経済水域（EEZ）は、低潮線（基線）から200海里（約370km）までの海域（領海を除く）とその海底及びその下で、同水域では天然資源の開発や、人工島などの構築物の設置と利用、海洋の調査や環境保護などの管轄権が認められている。 * 領空は領土・領海の上空で、その国の主権が及ぶ。 | スライドP3～P5    ワークシートW1    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| **『日本の領域と領土』**   * 白地図に日本の東西南北の端を引いてみよう   **個別ワーク** | * まずは調べずに個別で右記アプリ等を使用しながら、ワークシートW2（白地図）に日本の最東端、最西端、最南端、最北端に線を引き、日本の領域はどこまでだろうと考える。個別に線を引いた白地図を隣同士または全体で共有する。 | スライドP6～P7  ワークシートW2    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| * 日本の東西南北の端を確認してみよう   **グループワーク** | * グループでインターネットを活用し、情報を検索して日本の東西南北の端を見つけ、前の学習活動で東西南北の端を引いた白地図と照らし合わせ、日本の領域を確認する。   また、ワークシートW3に日本の東端・西端・南端・北端それぞれの島の名前を記入する。   * 国土面積と排他的経済水域の関係、および日本は国土面積が小さいものの排他的経済水域においては大きいという点について理解させる。   ▼ベースマップ | 国土地理院  <https://maps.gsi.go.jp/help/intro/looklist/1-basemap.html> | スライドP8～P11  ワークシートW2、W3    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| * 領土をめぐる問題   **グループワーク** | * 日本最北端の択捉島は日本固有の領土であるが、ロシアが不法占拠している現状を認識させ、地理②へ繋げる。また、竹島は韓国により不法占拠されていること、尖閣諸島は日本固有の領土であり、尖閣諸島をめぐる領土問題は存在しないことも認識させる。 * 時間があれば、グループでインターネットを活用して領土をめぐる問題について調べ、発見したことをグループ内で共有する。 | スライド　P12    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |
| 1. まとめ   <5分> | * 本時の学習を振り返る   **グループワーク** | * 全体で本時の学習を振り返る。 * 時間があれば、グループで本時で学んだこと、興味をもったこと等をワークシートまたはスライドにまとめ、発表し全体で共有する。 * 知識・技能：学習課題に対し、領域の構成や日本の領域の特徴、日本が抱えている領土問題について簡潔にまとめている。 * 本時の振り返りシートへの記述から、日本の領域の範囲や変化とその特色、領域をめぐる問題などについての理解の状況を確認する。本時の学習を踏まえ、さらに調べたいことなどについての記述から、領土問題などへの関心の高まりを確認する。 | スライドP13～P14  ワークシートW4    ・Google Jamboard  ・Microsoft Whiteboard  ・ロイロノート  ・ホワイトボードアプリ  ・電子黒板 |